

冬の温泉宿2軒

2/23/2017

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

冬の風情が漂う温泉場、草津温泉を訪ねてきました。

「草津よいとこ、一度はおいで……」という草津節で有名な温泉処に、初めて行ってきました。きっかけは、仕事で知り合った、群馬県温泉アドバイザーの小暮淳氏です。群馬県は日本でも有数な温泉湧出地であり、とりわけ草津温泉は日本で一番との評価が高い温泉地ということで出かけてみましました。今年一番雪が積もった日に行ったので、JR 長野草津口駅から、草津温泉までのバスの中からは雪景色がいっぱい。そして、狭い温泉街は降雪でいっそう狭くなっていました。

お世話になった草津ホテルは、大正2年創業という歴史ある和風旅館。出迎えてくれた玄関や廊下、そして建物全体が日本の良き伝統を感じる落ち着いたものでした。とくに接客の丁寧さには感心しました。泉質は酸性で、無色透明のまろやかなもので、翌朝までかすかに硫黄のにおいが肌に残っていました。この宿は、西の河原から源泉を引いていますが、もうひとつ有名な源泉の湯畑にも足を運んでみました。雪と湯気に覆われた景色は何とも言えないものでした。不思議に思ったのは平日というのに、若者でいっぱいなのです。女性だけのグループ、一人旅、そして若いカップル同士と。どう見ても8割は若者で賑わっているのです。若者を引き付けるものが温泉街の中の店にあるのかも知れません。

また、片岡鶴太郎氏の美術館がありましたので、鑑賞してきました。ほのぼのとした墨絵のタッチで画がられた動物の絵や、言葉を入れた屏風など本人の気持ちが前面に出た作風でした。ちなみに、年末年始は草津ホテルを定宿(アトリエ)にして作家活動をしているとのことでした。

1泊の旅でしたので、食事前と後、そして翌朝の3回、草津の温泉に浸かり、よき思い出ができました。今度は、新緑の時から紅葉の時に訪れてみたいと思い草津を後にしました。



雪の覆われた「草津ホテル」



有名な「湯もみ」 飛び入り体験をしてきました



歴史ある「元湯 玉川館」

場所は代わって、神奈川県厚木市の七沢温泉。ここも昔ながらの湯治場の雰囲気が残る温泉地です。ただ旅館があるだけの簡素な場所ですが、8軒ほどの旅館があり、今回は明治35年創業という老舗、元湯玉川館にランチに行き、いいお湯に浸かってきました。泉質はアルカリ性で、漆塗りの檜風呂に入ると、すべすべと肌にまとわりつくような滑らかなものでした。風呂では、偶然私の近在の人と一緒に、ひと時のおしゃべりが弾みました。こんな情景もあり、おいしい食事をいただいた日帰りの温泉紀行でした。宿の人とも話し、次回は猪鍋をいただきたいと思った次第です。 以上